

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援/放課後等デイサービス Olinace市原五井		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日 2025年 1月 27日	～	2024年 11月 30日 2025年 2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 35名 36名	(回答者数)	26名 14名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 27日	～	2025年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育	<ul style="list-style-type: none"> 「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳(前頭前野)が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。 数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する 脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることができ。また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。 ストーリーやイメージと運動がセットになっている ハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えます。 	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	事業所の療育スペースの広さ	運動遊びでは様々な運動プログラムの提供が不自由なく行えることや、子どもたちが十分に体を動かして遊んだりできる広さを確保している。	自由時間において、同じスペース内でボール遊び、サッカー等、体を動かして遊びたい子どもたち、ブロックやおままごとををしたい子どもたちと分かれてしまうことがあるため、今後も怪我のないような環境作りを工夫していく。
3	研修の充実さ	定期的な研修の実施、また、毎月オンラインでの研修に参加することで、職員達の意識を高めながら知識を深めている。	今後も職員間で研修後の振り返りを行い、理解を深めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流	当事業所で行う活動を優先しているため。	地域や他事業所の活動情報に目を配り、土曜、祝日、長期休みなどに、参加できそうな催しがあれば、状況に応じて参加を検討していきます。
2	保護者との面談の機会/保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> 毎日更新しているブログの中で相談の受け入れの案内を記載していますが、周知に至っていない。 仕事をしている保護者が多いため、保護者会など開催する時間の確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時や個別支援計画の見直しの際、その都度口頭で伝えていく。 保護者会開催について検討していく。
3	個別療育	平日においては時間の確保が難しいため。	短縮日課で下校時間が早い日や、療育スペースに余裕ができた際、個々が苦手とする運動を支援できるようにしていく。